

第3学年

話すこと・聞くこと

相手の一番伝えたいことをとらえ、考えの共通点・相違点を見つけないがら話し合うこと

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

互いの考えの共通点・相違点を的確に見つけられないために、意見がまとまらない。

【学校生活について幼稚園児に知ってもらうため、説明内容を話し合う場面】



ぼくは、本の借り方について説明したらいいと思います。

わたしは、どんな本があるか説明したいです。

わたしは、どうやって本を借りるかを教えてあげたいです。

「言い方の違い」と「考えの違い」との区別がつかず、考えが共通している意見でも、別の意見として扱っている。

実践の概要

単元名

幼稚園さんに学校生活の様子をつたえよう

『つたえよう、楽しい学校生活』光村図書

目標 互いの考えの共通点・相違点を見つけ、それをいかして合意形成の話し合いを行うことができる。

内容 ・上手な話し合いの仕方をまとめる。

- ・話し合いを行い、より上手な話し合いになるよう見直しをする。
- ・見直しを受けて再度話し合いを行う。
- ・話し合ったことをもとに発表会を行う。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容 (単元名)	つまずきの実態
第6学年	立場を明確にして主張し合い、考えを広げる討論をしよう	話し手の意図をとらえながら聞き、話の展開に沿って、助言をすることができない。
第5学年	田鶴野小を良くするために提案書を書こう	話し合う場面で、異なる意見を一つにまとめられない。
第4学年	大事なことを落とさない聞き取りメモ名人になろう	話し手の伝えたい大事なことを聞き落とさず、工夫してメモすることができない。
第3学年	幼稚園さんに学校生活の様子をつたえよう	互いの考えの共通点・相違点を的確に見つけられないために、意見がまとまらない。
第2学年	つたえたいことが聞く人によくわかる「あったらいいな、こんなもの発表会」をしよう	話し手が話した内容について、質問・アドバイス・感想が言えない。
第1学年	きいて しらせよう	大事なことを意識して聞き、そこから質問を見つけることができない。

単元末の目指す姿

- ・話し手の一番伝えたいことをとらえ、考えの共通点や相違点を見つけることができる。
- ・見つけた共通点や相違点をもとに合意形成や次の話題の提示を行い、話し合いにいかすことができる。

つまづき解消に向けた指導の工夫 ①

話し合いの様子を客観的に見る活動を行う。

- 活動のねらい▶
- 考えの共通点や相違点を的確にとらえる。
 - 話し合いを行う上での、共通点や相違点を見つけることの必要性に気付く。

ここがポイント

- ①事前にモデルCDや教科書を用い、「上手な話し合い」として「考えの同じところや違うところをはっきりさせる」という方法を学習させる。
- ②考えの共通点や相違点が見つかったら、合意形成や次の話題の提示ができる。反対に、見つからないと沈黙が続いてしまったり、じゃんけんや多数決でしか決められなくなったりする。実際にこのような場面を客観的に見ることで、①で学んだ方法の必要性を実感させることができる。

授業の様子



シーンとしてしまったぞ。
さっき〇〇さんと△△さんの考えが違ったから、そのことについて話し合ったらいいと思うな。

(期待される児童の姿)

客観的な立場をとることで、話し合いに参加しているときよりも落ち着いて意見を聞くことができる。そのため、的確に考えの共通点・相違点をとらえられ、その必要性に気付くこともできる。

つまづき解消に向けた指導の工夫 ②

意見を表に整理しながら話し合わせる。

- 活動のねらい▶
- 考えの共通点・相違点を見つけて、話し合いにいかす。

ここがポイント

グループの代表が、話し合いの中で出た意見の「一番伝えたいこと」の部分を表に書く。他の意見が出た際に、表に書かれた意見と照らし合わせ、共通した考えか相違した考えかを判断して表に書き加えていく。頭の中だけでは整理が難しいことや覚えていられないことも、表を用いることでグループ全員が共有することができる。

授業の様子

⑤	④	③	②	①	2
	図書 の ル ー ル を 教 え る。	多 す ぎ で で き な い	本 の し ら べ る い を せ つ め い	本 が 何 さ つ あ る か い う	本 の か り 方 を せ つ め い す る

※学校生活について園児に知ってもらうため、説明する内容を話し合う場面

③で反対意見が出ているな。
次は「本の種類を説明するかどうか」について話し合おう。

(期待される児童の姿)

意見が出る度にすでに同じ考えが挙がっていないか確認することで、共通点を見つけながら話し合うという意識が根付く。相違点がはっきりするため、次に話し合うことの話題提示にもつながる。

第3学年

書くこと①

想像したことを関連付けながら書きたいことを決め、物語文を書くこと

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

内容的なつながりを考えて書きたいことを決めることができない。

取材したことが構成にいかせていない。

おわり	中	はじめ
<p>宝箱を開けると、宝石が入っていた。二人は幸せにくらした。</p>	<p>宝島につくと、ドラゴンのいる道を歩くことにした。ドラゴンが火をふいてきたが、二人は火をよけて宝箱のところまで走った。</p>	<p>ぼうけん好きの山下と歌が得意な坪木が宝の地図を手に入れた。</p>

物語の設定と構成の「中」の部分とを関係付けて想像を広げることができていない。

実践の概要

単元名

ぼうけん物語の作者になって出版記念会を開こう

『たから島のぼうけん』 光村図書

目標 場面相互の関係に気を付けて、想像したことを物語文に書き表すことができる。

- 内容
- 物語の設定を考える。
 - 物語の設定を踏まえて出来事を考える。
 - 構成を考えて物語文を書く。
 - 出版記念会を開き、クラスで読み合う。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

学年	学習内容 (単元名)	つまずきの実態
第6学年	説得力のある意見文を書いて、お別れ遠足の思い出を作ろう	自分の意見が深められなかったり、自分の考えを支える効果的な根拠が挙げられなかったりしている。
第5学年	提案書を書いて、班のつどいを『超変革』!	自分の考えを、他の視点から見直したり、他の条件などと関係付けたりすることができない。
第4学年	3年生にクラブのよさを伝えよう	自分の考えを明確にして、伝えたいことを写真や絵と関係付けた紹介文を書けていない。
第3学年	ぼうけん物語の作者になって出版記念会を開こう	内容的なつながりを考えて書きたいことを決めることができない。
第2学年	かんさつ名人になろう	観察したことから書くことを選んだり、簡単な構成で文章を書いたりすることができない。
第1学年	しらせたいなカードで、鈴原小学校の『いきもの』をしらせよう	メモしたことをもとにして、観点ごとにまとまりのある文章に書き表せない。

単元末の目指す姿

- モデル学習として、課題解決型のグループワークを行うことで、関係付けて考えを作ることを体験し、自分の物語にいかすことができるようになる。
- 取材と構成をつなげて考えをつくることができるようになる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ①

グループで課題解決型のモデル学習を行う。

活動のねらい▶ 「はじめ」と「中」の関係付け方を学び、自分の考えにいかすことができる。

ここが
ポイント

教師から物語を例示し、物語中の出来事の解決策をグループで考えさせることで、登場人物などの設定と関係付けながら、物語の出来事やその解決策を設定することの必要性に気付かせる。

授業の様子



この登場人物ならではの、出来事や解決策の方が面白いね。

この物語の設定からすると、こんな解決策が考えられるね。

(期待される児童の姿)

自分の物語ではなく、教師が作った物語を題材としてモデル学習をすることで、提示された登場人物や設定を踏まえて、物語における出来事の解決方法を考え合うことができる。「はじめ」と「中」を関係付けることを体験的に学ぶことができる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ②

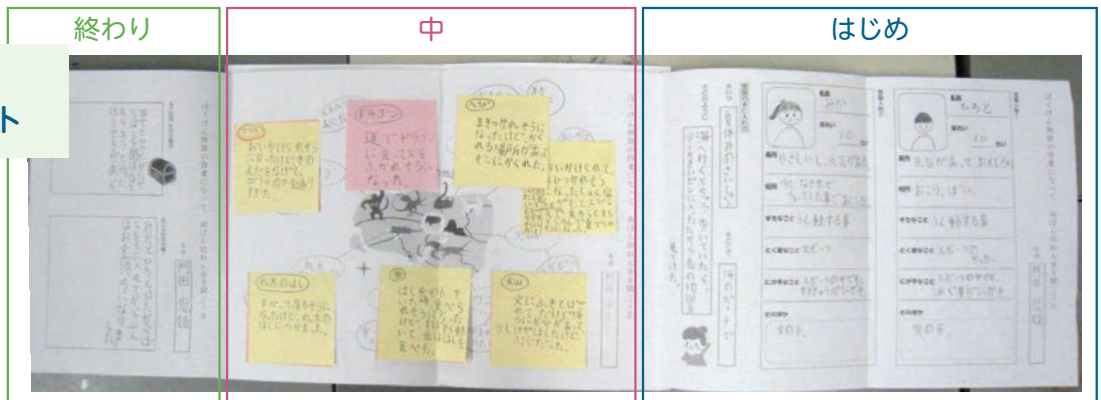
「はじめ」「中」「終わり」に書くことを、それぞれ1枚のワークシートに書き、その3枚のワークシートを1枚につなぎ合わせる活動を行う。

活動のねらい▶ 視覚的に内容のつながりをとらえることで、自分の考えをまとめられる。

ここが
ポイント

「はじめ」や「中」などは、それぞれ別の時間に取材として書かせたワークシートだが、それらを貼り合わせることで構成について注目させることができる。取材と構成を分離させないことが大切である。

活用した ワークシート



(期待される児童の姿)

「はじめ」「中」「終わり」をつなぎ合わせることで、視覚的に内容的なつながりを理解することができる。このワークシートをもとにすることで、スムーズに物語の構成を考えることができる。

第3学年

書くこと②

中心となる言葉や文を見つけ、書かれている内容を要約して書きまとめること

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

中心となる言葉や文を見つけて要約することができず、長い文を書き写してしまう。

してはいけないこと
の具体例を書いてしまっている。

です。
しないこともひつよう
の犬がほえても、気に
ません。さらに、ほか
ましても、ほかに、ほかに
としてはいけいけ
いにする方に行こう
り、おいしそうなお
まえたり、じゃれた
た、仕事中は、人にあ
てはいけません。ま
たり、あばれたりし
も、おこったり、ほえ
どんなことがあつて

主語がない。

中心となる言葉や文
を選択できない。

実践の概要

単元名

要約名人になってもうどう犬リーフレットを作ろう

『もうどう犬の訓練』東京書籍

目標 中心となる言葉や文を見つけながら読み、書かれている内容を要約して書きまとめる。

- 内容
- 主語と述語のつながり、段落の構成を考える。
 - 訓練について要約し、中心となる言葉を選択しリーフレットに書きまとめる。
 - でき上がったリーフレットを見せ合い交流する。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容 (単元名)	つまずきの実態
第6学年	町の未来をえがこう	資料を正確に読み取っているが、「この資料が本文に述べられている要旨につながるものではない」という判断ができていない。
第5学年	和の文化について調べよう	自分の考えを明確に伝えるために文章構成を考えているが、効果的ではない。
第4学年	わたしたちの生活とロボットについて考えよう	様々な角度から考え、内容を整理して書くことや接続語や指示語、文末表現を効果的に使って書くことができない。
第3学年	要約名人になってもうどう犬リーフレットを作ろう	中心となる言葉や文を見つけて要約することができず、長い文を書き写してしまう。
第2学年	どうぶつのひみつをみんなでさがろう	見つけた大事な言葉を使って、順序よく書きまとめたり、不要な言葉を省いたりすることができていない。
第1学年	サラダでげんきおしゃべりレシピをつくろう!	大事な言葉を見つけ、順序に注意して正しく文や文章を書くことが難しい。

単元末の目指す姿

- 中心となる言葉や文を選択できるようになる。
- 文章の内容について、大筋や大切なことを整理してとらえることができるようになる。
- 主語と述語のつながりを考え、内容を要約して書きまとめることができるようになる。

つまづき解消に向けた指導の工夫

- 要約に必要な難易度別キーワードの中から、中心となる言葉を選択して書きまとめる。
- 主語と字数の定まったワークシートを使用して要約する活動を行う。

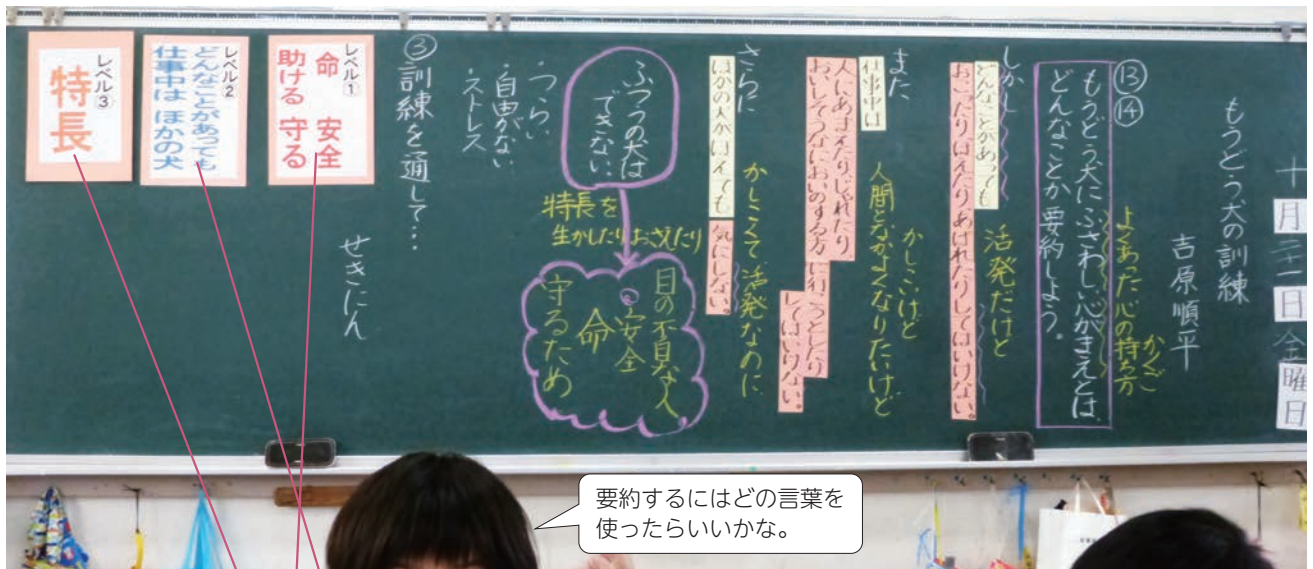
活動のねらい▶ 主語に適切に対応する述語を考え、制限字数内で収まるよう、大事な言葉を落とさないように必要な言葉を厳選して要約することができる。

ここがポイント

中心となる言葉を個人のレベルに応じて選択できるようにする。選べない児童には、担任の助言により適切なキーワードを選べるようにする。そうすることで、大切な内容を落とさず、焦点化して要約させることができる。また、主語を定めることで、対応する適切な述語も定まり、字数の制限があることで、言葉が厳選される。

授業の様子

〈キーワードを提示し選択させる〉



(期待される児童の姿)

要約に必要な言葉をレベル分けして提示し、その中からキーワードを選択させることで、文章が書きにくい児童も意欲的に取り組むことができる。

と	行	安	つ	て	町	わ	身	さ	
で	動	全	れ	も	で	し	も	に	わ
す	す	を	て	特	ど	い	う	つ	し
	る	一	い	長	ん	心	ど	け	い
	か	番	る	を	な	が	う	て	心
	く	に	人	お	こ	ま	犬	い	が
	ご	考	の	さ	と	え	に	き	ま
	の	え	命	え	が	と	ふ	ま	え
	こ	て	や	て	あ	は	さ	す	も

③ 訓練を通して...

主語と字数を定め言葉を精選させる

(期待される児童の姿)

主語と述語のつながりを意識し、言葉を精選しながら要約できるようになる。

第3学年

書くこと③

自分の考えが明確になるように、考えと理由を整理して書くこと

つまずきの実態
～こんな児童の姿が見られませんか？～

自分の考えたこととその理由を整理し、順序立てて書くことができない。

なぜそう考えたのか、自分の考えの理由が明確でない。

似たような内容が並列して述べられている。

しよう。
 みまでそうじをしま
 みなさん、すみず
 もいります。
 も使います。ぞうき
 を使います。ちりとり
 そうです。ちりとり
 ました。
 字を考え
 表す絵文
 そうじを
 わたしは

「まず」や「次に」などの順序を表す言葉が使えていない。

「～から」「～ので」などの理由を表す語句が使えていない。

実践の概要

単元名

理由がわかるように書こう

『理由がわかるように書こう』東京書籍

目標 自分で絵文字を考え、その考えと理由を整理して順序立てて説明する文章を書く。

- 内容
- 自分で絵文字を考えて、それを説明する文章を書くという単元のめあてをもつ。
 - 自分の考えを理由付けて順序立てて説明する書き方について学習する。
 - 絵文字を考え、説明する文章を書く。
 - 文章を交流し、単元を振り返る。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

学習内容 (単元名)		つまずきの実態
第6学年	自分の投書を新聞に投稿しよう	自分の主張に沿った理由とその理由につながる根拠が書けない。
第5学年	「和の魅力リーフレット」を作ろう	目的に応じた小見出しを作り、その内容を説明する文章を自分の考えと区別して適切な資料を入れながら書けない。
第4学年	広告大賞を目指して、夢の〇〇商品の広告を作ろう	2つの文章を読み取り、それぞれの意図や目的による違いが挙げられない。
第3学年	理由がわかるように書こう	自分の考えたこととその理由を整理し、順序立てて書くことができない。
第2学年	絵を見てお話を作ろう	場面がつながるように、伝えたい事柄を決められない。
第1学年	のりものかるたをつくろう	調べたことから、学習のめあて(役目・つくり・できることを意識して書く)に則した伝えたい内容が決められない。

単元末の目指す姿

- 多様な視点で考え、その理由を整理して書きまとめることができるようになる。
- 自分の考えとその理由を、順序を表す接続詞や理由を表す言葉を使って、順序立てて説明する文章が書けるようになる。

つまづき解消に向けた指導の工夫 ①




多様な視点で理由が書けるよう、絵文字をパーツに分けて、意味付けを考えさせる。

活動のねらい▶ • 1つの絵文字に対して、多様な視点で考え、その理由を整理して書くことができる。

ここがポイント

絵文字の一つ一つのパーツについて気付いたことから、何を表す絵文字か、その理由につながることを整理して書きまとめるようにする。

ワークシート

理由③ 	理由② 	理由① 	絵文字の意味考えよう（理由を3つあげて、そう考えた理由を書く）																																																																																																																																																															
<table border="1" style="width: 100%; height: 150px;"><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>																																																				<table border="1" style="width: 100%; height: 150px;"><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>																																																								<table border="1" style="width: 100%; height: 150px;"><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>																																																						

(期待される児童の姿)
絵文字をパーツに分けることで、多様な視点で考え、考えた理由を整理して書くことができるようになる。

つまづき解消に向けた指導の工夫 ②

「はじめ、中、終わり」のまとまり、理由や順序を表す接続詞、考えと理由を書くときの文末表現など、表現の工夫を話し合って見つけ出させる。

活動のねらい▶ • 自分の考えを理由付けて順序立てて説明する書き方がわかる。

ここがポイント

教科書の文章から理由を表すときに使う言葉や順序立てて説明するときに使う言葉、文章構成などを見つけるようにする。ペアで話し合わせた後、全体で出し合い、出てきた表現の工夫を一覧表にまとめることで、順序を意識しながら自分の文章に活用できるようにする。

授業の様子



説明するときには、「はじめ、中、終わり」のまとまりを考えるのも大切だったね。

「一つ目は」「二つ目は」という言葉を使うと、理由を整理して書きやすいな。

自分の考えを書くときは「～と思います。」や「～考えました。」という言葉を使うといいね。

考えた理由を書くときに「～から」や「～ので」という言葉を使うといいね。

(期待される児童の姿)
理由付けて順序立てて説明する書き方がわかり、自分の文章にいかすことができるようになる。

第3学年

読むこと①

場面の移り変わりに注意しながら叙述をもとに想像して読み、一人一人の感じ方に違いがあることに気付くこと

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

伝えたいことを条件に合わせて、まとめて書くことができない。

①思いつくまま長く書き、伝えたいことが伝わりにくい

②まとめることや伝えたいことの要点を絞ることが苦手

③「おもしろかった」等、表面的な感想で満足している

④叙述をそのまま理由として答える

実践の概要

単元名

心にのこったことを、自分の言葉で表そう

『モチモチの木』 光村図書

目標 登場人物の行動や会話から、人物の人柄や気持ちをとらえて読み、心に残ったことを自分の言葉でまとめてポスターに書き入れ、伝え合うことができる。

内容 ・場面ごとに登場人物の人柄や気持ちをとらえ、ワークシートに書いて交流する。
・一番心に残ったことを、ポスターに表す。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容 (単元名)	つまずきの実態
第6学年	自分の感じたことを、朗読で表現しよう	作者の思いを読み取るだけになって、自分の経験や思いを関連付けて、読みを深めることができない。
第5学年	説明の仕方の工夫を見つけ、話し合おう	<ul style="list-style-type: none"> 本文をもとに文章の構成・構造をとらえられない。 自分の考えを述べるときに、自分の知識や経験と結び付けながら説明することができない。
第4学年	段落どうしの関係をとらえ、説明の仕方について考えよう	段落相互の関係を考えたり、叙述を自分の経験や知識と関係付けて主体的に読み深めたりできない。
第3学年	心にのこったことを、自分の言葉で表そう	伝えたいことを条件に合わせて、まとめて書くことができない。
第2学年	知っていることとつなげて読もう	長文になると、「問い」に対する「答え」の部分が見分けられない。
第1学年	おはなしのおみせやさんごっこをしよう	自分の経験と結び付けて想像豊かに読み、自分の考えをまとめたり広げたりできない。

単元末の目指す姿

- ・自分の意見を言うとき、根拠となる文を挙げて、そう思った理由を付けて言えるようになる。
- ・自分が一番伝えたい内容を短くまとめて伝えられるようになる。
- ・自分とは違う意見を聞いて、考え方の違いに気付き、より深く考えることができる。

つまづき解消に向けた指導の工夫 ①

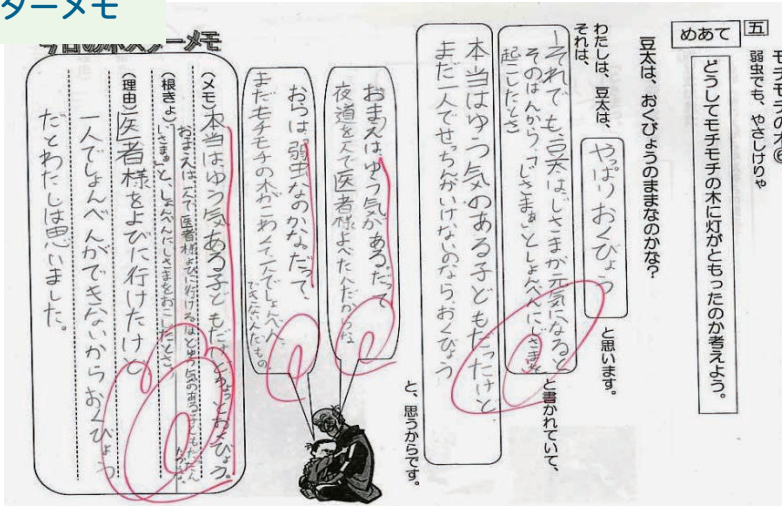
ワークシートに書いて自分の思いを整理させる。

活動のねらい ▶ ワークシートを用いて話す内容を整理する。

ここがポイント

自分の意見に根拠を挙げて話せるように、話す順番通りにワークシートの枠を設定する。そうすることで、自信をもって自分の意見を話すことができる。また、ポスターメモで短く本時の学習をまとめることで、視点を明確にして本時の学習を振り返ることができる。

ポスターメモ



(期待される児童の姿)

話す内容をワークシートに書くことによって、考えを整理することができ、自分の言葉で根拠を挙げて話すことができる。また、ポスターメモとして毎時間のまとめを行うことで短く思いを整理することができる。

つまづき解消に向けた指導の工夫 ②

自分の意見を根拠と理由を挙げて伝える活動を行う。

活動のねらい ▶ 相手にわかりやすく伝えるために、根拠となる文とそう思った理由を付けて伝える。

ここがポイント

- ・「勇気がある」「おくびょう」等のキーワードを提示し練り合わせる。
- ・最後まで一人でせっちんに行けなくなっていることから「おくびょう」と答えるなど、表面的な表現にとどまっている場合には、それまでの登場人物の言動を想起させる発問を行い、読みを深めさせる。

授業の様子



僕は、豆太は勇気があると思います。○○と書いてあって、おくびょうな豆太が勇気を出したからじさまを助けることができたからです。

(期待される児童の姿)

自分の考えを伝えるとき、根拠となる文を挙げて、そう思った理由を付けて言うようになる。

第3学年

読むこと②

場面の移り変わりに注意しながら、人物の行動、情景、会話などの表現に着目して読むこと

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

中心人物の様子を表す言葉から、中心人物の置かれている状況を想像して、気持ちを書くことができない。

中心人物の思いを深く想像することができていない。

様子を表す言葉
『両手をつないで走り
ました。』

・ちいちゃんは、小さくて走る体力があまりないからです。

この場面で一番大事にする言葉が示されていない。

実践の概要

単元名

場所の移り変わりをとらえて感想をまとめよう

『ちいちゃんのかげおくり』 光村図書

目標 場面の移り変わりに注意しながら、人物の行動・情景・会話などの表現に着目して読む。

内容 学習の見通しをもつ。

- ・人物の行動・情景・会話等の表現から、場面ごとにちいちゃんの気持ちを考える。
- ・ちいちゃんに手紙を書く。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

学習内容（単元名）		つまずきの実態
第6学年	宮沢賢治が創り出す世界を味わおう	登場人物の相互関係や場面についての描写をとらえることができず、主題にせまる考えをもつことができない。
第5学年	すぐれた表現に着目して、物語のみりよくを伝え合おう	一方的なものの見方から抜け出せず、主題にせまる感想をもつことができない。
第4学年	読んで考えたことを話し合おう	登場人物の姿・様子について、文中の一部から表面的にしかとらえられない。
第3学年	場所の移り変わりをとらえて感想をまとめよう	中心人物の様子を表す言葉から、中心人物の置かれている状況を想像して、気持ちを書くことができない。
第2学年	音読げきをしよう	叙述に込められている登場人物の気持ちの変化を想像することができない。
第1学年	音読発表会をしよう	場面の様子や登場人物の言動を表す言葉を見つけ、想像を広げることができない。

単元末の目指す姿

- ・めあてを明確にすることで、人物の様子やその時の気持ち、まわりの情景に目を向け、読み進めることができる。
- ・ワークシートを用いることで、場面ごとの中心人物の気持ちの変化を読み取ることができる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ①

読み深めるためのめあてを、場面ごとにグループで話し合わせる。

活動のねらい▶ 児童に共通点を考えさせることで、児童が何を読めばよいのか（めあて）を明確にすることができる。

ここがポイント

- 教師が提示した「めあて」について、何について考えればよいかをグループで話し合う。
- 出された意見をもとに、全体で本時の「めあて」について話し合うことで、本時で考えることの具体的な見通しがもてるようにする。
- 具体的にになった「めあて」をもとに読み取りを行う。

授業の様子



たった一つのかけぼうしだから一人ぼっちでしているんだよ。

お父ちゃん
お母ちゃん
お兄ちゃんの声が聞こえてきているよ。

(期待される児童の姿)

根拠となる言葉とその理由を聞くことで、その場面の中心人物の気持ちをより深く想像しながら読み取ることができる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ②

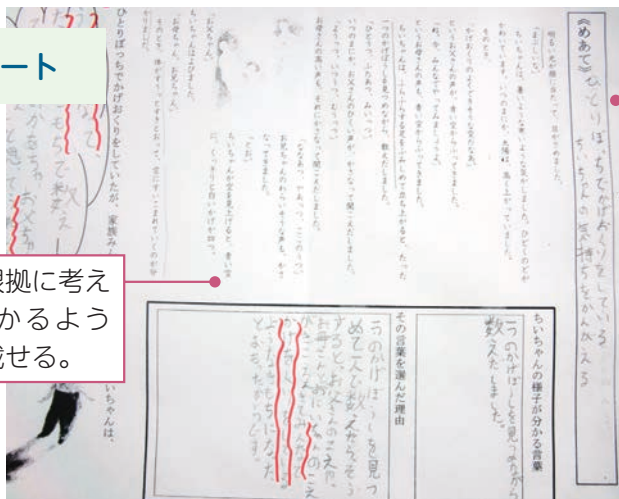
段落ごとに根拠となる言葉を書きとめられるワークシートを用いる。

活動のねらい▶ 「どの言葉」から「どんな気持ち」がわかるのかを明らかにしながら、中心人物の気持ちを読み取らせる。

ここがポイント

本文を載せたワークシートを利用して、段落ごとに根拠となる言葉を書きとめていくことで、本時の「めあて」（中心人物の気持ち）を常に意識しながら、その場面に置かれている心情を細かく読み深めるようにする。

ワークシート



どの言葉を根拠に考えたのかがわかるように、本文を載せる。

児童とともに設定した「めあて」を書きこむ。

(期待される児童の姿)

場面ごとに中心人物の気持ちに寄り添うことができる「めあて」にすることで、その気持ちを深く読み取ることができる。